

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0874100555		
法人名	鋼製特品株式会社		
事業所名	グループホーム「ひまわり」西棟		
所在地	〒300-4542茨城県筑西市吉田611		
自己評価作成日	2021年3月22日	評価結果市町村受理日	2021年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=0892700089-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

筑波山を望む豊かな田園風景の中にある施設で、系列事業所との協力も密にあり連携も取れています。
米や野菜は自家栽培し提供されるので、安定した食事を提供できます。
近隣の方々とは施設や町の行事などで交流を図り、認知症の理解を深めていただけるよう職員一同心がけておりましたが、今はコロナの為すべてのことを中止、書面連絡にしており、施設内各棟ごとでレクリエーション、リハビリ、脳トレなどを行い過ごしています。
はやくコロナが終息して、バーベキュー大会やひまわり感謝祭を開催できればよいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道路を挟んで2つのユニットが建っている。勤続年数が高い職員が多く、利用者とは身内のような関係ができ、家庭のような雰囲気のある事業所であった。法人が豊かな自然の中で栽培した米や野菜、卵を使って作る食事は自慢である。ハート&スマイルを基本とする理念に沿い、笑顔があり、穏やかな生活が送れるよう支援している。事業所にボランティアとして訪問していた方が居心地の良さを実感し、利用することになった事例がある。最後の看取りまで行っている。法人内の看護職員にいつでも相談ができることは、利用者・家族・職員の安心に繋がり、安定した生活を継続できる要因になっていると感じた。
*** 新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき、介護のプロとして誇りを持って取り組み、明るく開かれた施設を心がけている。施設内で勉強会や研修会を実施し、また日常的に話し合う機会を設け利用者の適切なケアに努めている。	『ハートとスマイル』を基本とした理念に基づき支援しているが、コロナ禍で職員数が減った時には精神的負担が多くなり、笑顔が減ったと感じることがあったとのこと。職員は日々の支援の中で笑顔が大切であること理解している。利用者と職員で月間目標を決めており、最近はイベント関係の目標が多い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流の場として、バーベキュー大会、ひまわり感謝祭、などを毎年行っていたが、コロナの為行えていない。また散歩中には、こちらから挨拶をし、利用者や地域の方々との接点を作るよう心がけていたが今は散歩も自粛、玄関先で日光浴をしている。	コロナ禍で地域との交流はできていない。地域でコロナ陽性者が出ると、不安から電話での問い合わせがくることもあり、近隣への散歩を控え、玄関先で花を見ながら日光浴をする。近所の方が、コロナ禍でも野菜やバナナ等を届けてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場などで、普段の生活を報告し理解をしていただくようにしていたが、現在は書面での報告のみ、地域の高校生に体験学習の場を設け、認知症理解を深めていただくように努めていたが現在はそれも中止にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、行事や利用者様の状況、又空き状況を報告していた。施設に寄せられた苦情、出席者からの情報は報告していただき、ご家族にも参加していただき、意見交換を行いサービス向上に繋げていたが、現在はコロナの為、電話や書面になっている。	文書報告による開催とし、利用状況やワクチン接種状況、事業所内での様子等を報告している。対面で会議を開催していたころは様々な意見が出されていたが、文書報告に対しての反応はない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターからの研修には、必ず出席し協力関係を築くようしていた。社会福祉課の担当者とは、利用者の相談、報告などで直接出向くなどして常に連携をとっていたが今はすべて自粛、電話や書面での相談になっている。	市からの連絡や研修等もリモートになり、直接出向くことは少なくなっているが、良好な関係は継続できている。介護保険の更新申請や生活保護受給者の報告には出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束防止委員会を設け、職員2名が委員を努め内部研修を行っている。拘束しないケアの実践は、職員全員が理解し取り組んでいる。	拘束防止委員会は年4回開催している。研修は、新入職員もいることから『何故、拘束してはいけないのか』『拘束したら、本人、家族、職員はどのようになるか』などを基礎研修に含めて行っている。現在、拘束が必要な利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け内部研修を行っている。職員同士も注意し合える環境をつくりだしている。入浴時はアザや傷などがないか確認、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修に於いて学ぶ機会を設けている。意見や疑問を提示してもらい研修資料に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はご家族を含め十分に説明をした上で、納得していただき、契約の締結を行っている。不安や疑問点は、よくご理解を頂いたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望は、日々の会話等から聞き取るようにし、棟会議で話し合いを設け、ご家族にはアンケートを実施、棟会議や運営推進会議の場で発表し、改善に努めている。結果はご家族に報告している。	面会制限中であるが、玄関先で、距離を取るなどの感染予防に配慮しながら、直接会える環境作りに努めている。面会が頻回であった家族も、回数を控えてくれている。家族から、新型コロナ感染症を心配する電話はあるが、要望は寄せられていない。今年はアンケートの実施ができていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善会議を通し、意見交換できるようにしている。定期的に個人面談するなどして、できること、できない理由を説明している。	ユニット会議を月1回実施。カンファレンスが主であるが、報告事項や職員の意見も聞く機会でもある。会議以外にも、気づいたことをノートに記し送りがされている。入職したての職員が以前の職場でのケアをした際、話し合いを設け、ケアの仕方を統一した。職員によって気になる清掃箇所が異なるので、相談しながら取り組んでいる。個人面談は行っていないが、チェックリストで個別の状況を把握している。職員からは、和やかな職場環境で託児所もあり、働きやすいとの声が聞かれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	会議や個人の面談を通して、勤務状況や職場環境についての情報を収集、向上心を持って働けるような環境と、やりがいのある職場作りに努めている。勤務年数に応じて、表彰がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の向上心や力量を把握し、研修の機会を作ったり、所内の勉強会などで個人のケアの質を上げるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所の会議や研修に進んで参加し、自施設でも進んで発表させてもらうなどお互いにサービスの質の向上を目指していたが、現在は電話か書面になっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するまでは、ご本人の不安や疑問に耳を傾け、なんども面談の機会を設け、安心できるまで説明している。希望や要望を尊重できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と対話しながら、困っていることや不安なことを納得していただいてから、サービスを開始している。居室の見学をしていただき、入居している方の様子なども見ていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の出来ること、できないことを把握し、今一番必要なことは何かを見極め、他サービスを含めた利用も考え、ご本人とご家族により適切なサービスを提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員一人ひとり、共に生活している関係であることを認識している。思いを共有することで、互いに心が通じ合い、支え合う関係作りができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ともお互いに信頼できる関係を築くように心がけている。ご本人とご家族との絆が途切れないように、面会時は静かな時間が持てるように居室でお話される。又、職員は普段の生活の様子を報告している。(現在は面会禁止)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力してもらいながら、馴染みの知人、友人との関係が継続できるよう連絡の援助をしていた。来所されたときは、居室で気兼ねなくお話ができるように配慮していたが、現在は面会は禁止、電話対応のみとしている。	友人や知人の面会が多かったが、現在はコロナ禍で、電話でのやり取りが多くなっており、子機を使って自室で話せるような支援をしている。携帯電話を持っている方もいる。新聞を購読される方も数名おり、職員が届けている。乳製品の購入をされていた方は、体調も整い、家族の意向で中止した。理美容院へは出向かず、資格を持つ職員がカットしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやリハビリの時間、散歩等のときに、他棟の利用者とも交流を図っていたが、現在は他棟との交流も自粛している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族、ケースワーカーなどを通じてご本人の状況確認している。ご家族から連絡して下さることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や日々の会話や観察からご本人の希望を把握し、出来ることは叶えるようにしている。難しい場合は、職員間で話し合い、利用者の立場で考え検討している。	意思表示できる方がほとんどで、昔の自分のこと、旅行や釣り、趣味の話など、利用者同士でコミュニケーションがとれている。その中から希望等が出されることもあり、可能なものは実現できるよう努めている。趣味の継続はなかなか難しい。自宅に帰りたいたいという声が多く聞かれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や、ご本人の話から生活歴の把握に努めている。又ご家族のいない方は雑談の中からいままでの暮らしの把握に努め、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、お茶の時間以外は、それぞれに自由に過ごしている。部屋で休んだり、ご自分で手、足のリハビリ運動をしたり、テレビを見たりしている。できる方には、洗濯物をたたむのを願っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の時には、モニタリングを行い、再アセスメントをし、サービス担当者会議を開いている。ご本人、ご家族の意見を反映できるよう現在は家族に電話で聞いている。またご本人と職員で開催している。	アセスメントやモニタリングは、利用者や家族、職員の意見を聞きながら、計画作成者が行う。家族からは「転ばせないで」との要望がある。プランは、本人と他の利用者の役割までが明確にされ、幅広い視点から作成されている。24時間シート、支援経過記録に行動が記録され、ケアプラン・医療・夜間が見やすく色分けされている。プラン作成後は家族に郵送し、サイン後に返送してもらうが、利用者自身がサインされる方もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化など、気付いた点は記録する。ケアプラン、医療に関することは、それぞれ色別に記入し、分かりやすくしている。朝、夕の申し送りは口頭で報告、連絡ノートも活用し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望により、自宅にいる息子に会いに行ったり、買い物に行く希望は受け入れていたが、現在はすべて禁止し買い物は職員が代行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防機関に協力を得て、避難訓練を受けたり、交番にも施設の現状など報告している。民生委員、区長、市職員の助言なども受けながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望でそれぞれにかかりつけ医を決めている。往診を希望の方は往診で対応、受診が必要となった場合は職員が付き添い通院する。又、緊急時は24時間体制で同傘下内の看護職に、指示を仰ぐことができるようになっている。	往診対応の方は、変化があった時に家族に連絡をいれている。かかりつけ医の受診は職員が付き添っており、必要に応じて家族に連絡し、記録している。顕著な変化があった時には、24時間、法人内の看護職員と連絡が取れる体制が整っており、職員は安心して対応できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で、少しの変化でもあれば同傘下内の看護師に相談、助言をうけ、対応できるようになっている。受診した場合は必ず家族に連絡、報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診している際も主治医、病院関係者との関係を良好に保つように心がけている。入院した際には頻回に面会に出向き、ご本人にも安心していただくよう努めていたが、現在は面会禁止。また早期に退院できるよう主治医、病院関係者と相談する機会を多く持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化に対する説明をご本人、ご家族に行い書面に残している。入院中であってもその後の方針について、ご家族、病院関係者と協議を重ね決定している。終末期のケアもご家族の希望を受け入れ医師、看護師と連携しながら行っている。	看取りケアを行っている。契約時に希望を聞き、重度化した時に再度話し合い、家族の意向も取り入れながら支援している。利用者も一緒に看送ることがあるが、混乱はない。「最期に立ち会うことは怖い」と話す職員もおり、看取り実施後に喪失感を味わうこともあるので、カンファレンスを開き、幸せに送ることができた、苦しませずに送ることができたと確認し、職員を励ましている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受け、急変時や事故発生時の対応を学んでいる。又、インシデント、アクシデントレポートの記入から対応策を話し合うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災通報装置の設置がある。消防署にも連絡し定期的に避難訓練を行っている。災害時のマニュアルを全職員が熟知できるようにしている。地域の消防団、近隣住民の方々にも災害時の援助をお願いしている。	避難訓練は年2回行っている。地震・竜巻を想定して、訓練ではカーテンを閉め、部屋の中央部分に集まる。避難は10分でできている。法人本部に小型発電機を準備し、3日分の食料を備蓄している。備蓄品をリスト化し、倉庫の見やすい位置に掲示されている。東日本大震災では、本社から届いた工業用の大型発電機で対応した。職員は、利用者も職員も年齢を重ねていくことへの心配、外階段が急で危険なことへの不安を感じているが、誘導順位などが確立され、しっかりとした訓練が行えていた。	避難時は、主に中の階段を使っているが、いろいろな場合を想定し、外の急な非常階段にサビ止め等の整備をして、いつでも利用可能な状態を保って頂きたい。個人用の持ち出しグッズの検討も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握、プライドを大切にしよう心がけている。トイレは各居室に設置しており、排泄介助の際は、さりげなく誘導する等配慮している。	トイレは居室にある。アコーディオンカーテンがないトイレではドアを閉める。浴室が食堂に隣接しているので、ドアの開閉に配慮している。夜のおむつ交換時は、利用者の動向確認のためにドアを少し開けている。利用者同士のトラブルはない。写真掲載等は文書で同意を確かめ、ホームページには写真を掲載していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中から、ご本人の希望などお話されるので、できる限り話しやすい環境を作っている。あまりお話をされない方は、表情などから思いを汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、強制ではなく思い思いに過ごされている。居室でテレビを見たり、昼寝の時間をとったり自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛のカットは、近隣の美容師さんに訪問をお願いしている。現在はコロナで外出を自粛している為、近隣の散歩の際にはおしゃれをして行くこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食は、皆さんが楽しみにしています。3ヶ月に1回はおやつ作りを職員と一緒にいき、楽しく過ごします。	同法人特養の栄養士が立てる献立と調理品をホームで盛り付けをしている。アレルギーはないが、魚や鶏肉などの嗜好には個別に対応し、利用者から「おいしい」の言葉が聞ける。調査日もほぼ全員が完食していた。けんちんやおまんじゅう、ホットケーキなどを利用者と一緒に手作りすることがある。外食することができないので、出前を取ることがあり、最近はお寿司を食べた。以前は職員も一緒に食事をとることがあったが、コロナ禍で食事介助と見守りに徹し、別に食事時間を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立表を作り、栄養課で食事を作っている。一人ひとり食事、水分量は記録、職員間で共有している。個人的に食べられないものは、別に用意してくれる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきを実施、自分できる方は見守りで、できない方には介助で口腔ケアをしている。義歯は夜の間は預かっている。毎月歯科医から、口腔機能維持管理の指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツを使用されていても、トイレで排泄できるように支援、オムツ使用の方は、排泄パターンを把握、尿量測定なども行い、パットの無駄を省きご家族の負担を増やさないようにしている。	声かけにより改善することは困難であり、自立している方でも忘れてしまうことがあるので、時間で声かけをする場合もある。パット使用に当たっては、尿量測定を行い、適切なパットを選ぶようにしている。排便については、職員が目で確認し、必要に応じて薬を服用することがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく便秘をしないように、食事は全量摂っていただき、1日の水分量も1200cc以上摂るようにしている。栄養課から牛乳は週5回提供されているが、個人でヨーグルトを購入している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則午前中を入浴時間としている。週2回となっているが、その日の体調や気分が変わることもある。入浴剤を使用、ゆったりとお風呂に入っていたり、職員もコミュニケーションがとれる良い機会となる。	週2回の午前中を基本としているが、希望があれば午後入浴も可能である。ゆず湯や入浴剤を毎回使用している。皮膚疾患の方の順番を検討したり、足ふきマットは個別にするなど感染に配慮している。着替えの用意は、自分でできる方は確認のみ職員が行い、その他の方は居室で職員と一緒に選んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に就寝、起床時間も違う、居室に戻って体む時間も、それぞれ自由にしている。就寝時も希望で部屋の明るさを調節して、いつもの習慣で、安心して眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	契約している薬局から服薬管理指導を受けている。職員は、薬の目的、容量等は理解して支援している。薬は手渡し、又は、口の中に入れていく。病状の変化については、主治医、薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出やイベントなどへの参加は、楽しみのひとつであったが現在は禁止にしている。洗濯物など進んでたたんで下さる方もいる。食器拭きを毎回進んでお手伝いして下さる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひな祭り見学、お花見など、季節の行事に合わせて外出支援していた。外出は車いす対応の方が多いため、何回かに分かれて出かけるようにしていた。 現在は外出禁止、施設内でレクリエーション、リハビリ、脳トレなどを行っている。	以前はひな祭りを見学したり、宿泊旅行を楽しんでいたが、コロナ禍で外出ができず残念である。散歩の途中で桜の花見をした。散歩も近隣住民を配慮して頻回には行っておらず、玄関先で花を見ながら日光浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しい方が多いので、買い物の際は、職員が預かり、支払いをするときに本人に渡して見守っていた。現在は外出はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりは自由、届いたら本人に渡している。ご家族からの電話は可能な方にはとりついでいる。先頃利用者様が、弟から届いたお手紙を、何度も読み返す姿がみられた。職員が代読することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、特に気をつけ、皆さんが心地よく過ごせるようにしている。写真や花などを飾り季節感を出す工夫をしている。ご家族や面会者にも入りやすいような空間をめざしている。	玄関に大きなひまわりの絵が飾られている。季節を感じさせる作品を作って掲示したり、季節の花を飾るなど、五感に訴える配慮をしている。ホールや廊下にイベントの写真が掲示され、思い出することができる。足元は躓かないように空間を取るようになっている。作品作りをできる方が少なくなり、日中はテレビを見たり、脳トレやしりとり、おしゃべりを楽しんでいる。食後に健康器具の自転車こぎに勤しんでいる方がおり、体力維持にも繋がっていると感じた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とくつろぎスペースが続きになっているため、ひとりになりたい時は、自由に居室に戻れる。気の合った利用者同士でお喋りを楽しんだり、テレビを自由に見たりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品を持ち込んで貰っている。家具は本人の希望で配置、写真や花も飾っている。お気に入りのぬいぐるみなども飾り、落ち着いて、安らげる場所となるようにしている。	ドアに飾られた手作りのネームプレートには温かさが感じられ、自分の部屋を確認することができる。トイレ、クローゼットが付いた居室には、プラスチックケースなどが置かれ、家族の写真なども飾られている。仏壇と位牌を置き、毎日職員がお水をあげている方もいる。自宅で布団を使用されていた方には、布団で就寝する生活を継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居住スペースは2階になっている。廊下には、職員が見守りで歩行訓練ができるように手すりが設置されている。居室は自分の部屋と分かるように目印をつけている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム「ひまわり」

作成年月日 : 2021年10月11日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策 避難時は、主に中階段を使っているが、色々な場面を想定し、外の非常階段にサビ止め等の整備をして利用可能な状態を保つ	避難訓練時、外階段の使用(可能な利用者に限り)と整備をする	本来、非常階段を利用し避難訓練も行うべきと考えていましたが、徘徊・離施設者とリスクを伴うことも多く、ほとんど利用していない状況でした。今後は外階段を利用した避難訓練を行うために外階段の整備も行っていきます。	12ヶ月
2	35	災害対策 個人用の持ち出しグッズの検討	個人個人の必要物品の整備と用意をして緊急時に備える	一人一人の必要物品(薬の内容を含めた個人情報・衣類等)持ち出しやすい場所に保管する	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。